

●ドローン（無人航空機）の現地体験に参加して

去る6月21日、当倶楽部会員及び認証企業の計6名が、西宮市北部にあるドローン基地で操縦体験してきました。昨今注目されているドローンがより身近に感じられたのと同時に、その活用方法についても無限の可能性が秘められていると改めて認識してきた次第です。

●明るいシステム倶楽部の通常総会を終えて（6月26日開催）

- ・総会は、全議案について賛成多数で可決し滞りなく終了しました。ただ、直近2年間は収入の伸び悩みにより事業収支が悪化し、今年度も種々改革が急がれる状況です。
- ・当倶楽部の新体制について；現行役員9名は全員留任（下記参照）。

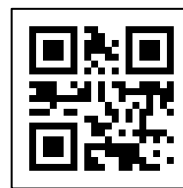
役職；理事長 芦田 雅弘 副理事長（兼 事務局長） 高村 和義  
理事 松居 基夫、 鈴木 忠彰、 川上 広幸、 宮崎 英二、  
江木 宏志、 柴原 勉  
監事 松浦 茂子

●明るいシステム倶楽部のホームページのリニューアル

- ・当ホームページは、開設以来順次、内容を追加・拡充する形で更新してきましたが、この度、スタート画面を中心に、見たい内容に速くアクセスし、より見やすい表示を心がけ、画面・内容を刷新いたしました。
- この7月1日からスタートしておりますので、どうぞご期待下さい。

< 7月の送付物 >

- ① 日本一明るい経済新聞 7月号
- ② ビープラッツプレス 最新号
- ③ 年会費納入のお願い（該当者には別途郵送の予定です。）



明るいシステム  
倶楽部  
ホームページ

< 7月の主な活動予定 >

7/6(土)	気楽な ZOOM サロン(43)	当倶楽部会員専用の交流の場です	20:00～21:30
7/17(水)	役員会議(48)	令和6年度通常総会の結果を受けて	14:00～15:00
7/17(水)	明るいシステム検討会議(31)	「明るい活動事例」の整理・分析	15:20～16:20

AKS 市民大学 (ZOOM 形式)

7/10(水)	菊池教室(42)	感性を育む和学講座「八朔と田の実の節句」	20:00～21:30
7/27(土)	宮崎教室(46)	「あっ！と驚く問題解決法」	20:00～21:30
7/30(火)	柴原・松居教室(35)	井上新八氏の「続ける思考」	20:00～21:30

## このところ、朝日新聞・1面トップ記事に注目しています！

明るいシステム倶楽部会員 黒田 能弘（よしひろ）

このところ、朝日新聞第1面のトップ記事に注目しています。

2022年12月30日付では、『増える無縁遺骨弔う人なく—行政が葬祭費負担 年4万862件』に始まり、本年・2024年4月6日付けには、『身寄りなき老後—71歳で脳梗塞 預金1200万円 親族頼れず おろせぬ医療費』とある。

続いて、同年5月7日では、『身寄りなき老後 国が支援制度—日常生活から死後対応まで 試行へ』、その2日後には、『認知症2040年には584万人 65歳以上 「前段階」含めると3人に1人』とある。また同年5月14日付では、『65歳以上「孤独死」年6.8万人 政府データ推計 実態把握へ』とあります。同年5月15日付では、『介護保険料平均6225円 24~26年度前回から3.5%増』、そして1面ではないが、「単身者の終活登録支援—緊急連絡先や延命治療希望など」とあります。ご存知でしたでしょうか？ これらの状況は私たち高齢者周辺の社会状況の深刻さを予告しているのです。これらは他人ごとではなく、自分のこととして考えねばなりません。

小生が2年前に脳出血の手術を2回経験（おかげで後遺症もなく）した「おひとりさま」にとっては、「孤独死・孤立死」といったことは、今や最大の関心事となっているのです。

家族に面倒がかかる葬儀・納骨・遺品整理等の「死後事務」の問題。実は小生、この「死後事務」の「終い方」をNPO法人高齢者・障がい者後見人の会の理事として、6件業務として執行してきた経験があり、その複雑さ・大変さを経験しているからです。これは、仕事としての業務であるからして、誠心誠意執り行いました。

自分事としては、地域に参加することに目覚め、大阪市中央区に住まいする小生はその中央区の「広報」に掲載されていた、「健康づくり・パンジーの会」というのに参加しました。と、そこで知り合った同世代の町会長さんのお勧めもあり、「中大江公園愛護会」と、「敬寿会」という老人会（いままで、まったく関心がなかったのですが・・・）と立て続けに会員となりました。

本年3月・4月には、それぞれ年1回の総会が開かれたのです。その総会で、各会の予算・行事計画・役員の紹介などがあって、その概要が見聞できたのです。

その各々で小生は自己紹介の時、「2年前の手術を契機に、地域で知人・友人をつくりたく入会いたしました！ 81歳の独身です。よろしく」と申し上げました。各会では、圧倒的に女性が多く、男性は歓迎されたのでした（微笑）。

「生前活！アドバイザー」 兼 NPO法人高齢者・障がい者後見人の会 代表

◆西国三十三所札所巡り旅 (23)

西国 第 21 番札所 穴太寺

菩提山 穴太寺 (京都府亀岡市)

本尊：聖観世音菩薩

明るいシステム倶楽部会員：阿久根芳臣

行程：大阪市内から 46 k m (梅新東～新御堂筋～箕面トンネル～国道 423～府道 407)

今回の穴太寺は梅田の梅新交差点から新御堂筋線を一直線に北上して箕面トンネルから亀岡へ向かう。梅新あたりで渋滞につかまらなければ一時間足らずで行けてしまう。阪神高速の池田線からでも行けるが高速代を使うほどでもなく地道でもタイプは良好だ。

南丹～篠山に抜ける裏街道みたいな感じで交通の要衝でもあるらしく、穴太寺から5キロほどで保津川下りの“のりば”に行ける。お寺の周辺はのどかな田園が広がり、旧家や農家が点在するが“のどか”だが道路はよく整備されていて好印象だ。

但し、お寺の駐車場が砂利を敷いただけの広場なのに有料 (¥500) だったのが少し不満だ。これまで巡ってきた肌感でいうとここは無料であるべきだ。

1本の直線道路が左に直角に曲がる突き当りに山門があり、そこに白い土塀に囲まれた穴太寺がある。山門から正面の本堂まではすぐで境内はさほど広くはない。寺伝によると文武天皇の勅願により、705 (慶雲2) 年、大伴古磨大臣が創建したが明智光秀の戦火なので焼失。現在の建物は江戸中期以降に再建された。本尊は聖観音像で昔から「身代わり観音」の別称で呼ばれ、信仰を集めてきたという。

江戸時代の巡礼ガイドブック「西国順(巡)札細見記」(1791・寛政3年)にも巡礼道が紹介され、身代わり観音は、観音信仰とともに大いににぎわいを見せたと伝えている。

現在の聖観音像は二代目。三十三年に一度だけ開扉する秘仏で普段は見られない。次回は2046年とあり、あと二十二年待つしかない。この寺でもう一つ信仰を集めるのが、本堂の右手奥に安置される釈迦涅槃像しゃかねはんぞうであり「撫で仏」の愛称で親しまれている。

有料駐車場 (¥500)



突き当たりに建つ山門



入ってすぐの本堂



「怒る・叱る・正論」は同類項

明るいシステム倶楽部 理事 宮崎 英二

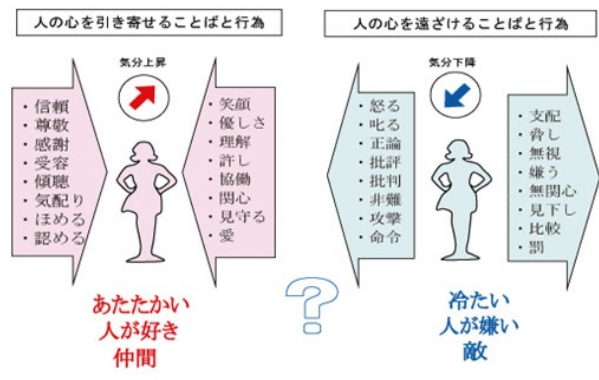
企業教育の参考書に 次のような「正しい叱り方」が書かれていますが、ちょっと無理があります。その理由を、受ける側の心情に何が起こるのかを考えて整理してみました。

- ① ほめる→ほめる→叱る・・・△
- ② 叱る→ほめる→ほめる・・・○
- ③ ほめる→叱る→ほめる・・・◎

ここで③が1番だと言っていますが、これはいずれも叱ることを正当化して、部下との人間関係がかい離していくことに意識が向けられていないのです。

また、育児やこどもの教育のマニュアルでも同様のことが書かれていて驚きます。なぜいけないのか、それは最善の答えを抽出するという教育の根本原理が抜けているからです。叱られる側の心にネガティブな感情が蓄積し「信頼・尊敬・感謝・感動・やる気」を崩壊させる萌芽となり、反感や怒りの感情を昂進させることに気がついていないのです。これは恐怖を与えて動かそうとする戦略であり、また「正論でくどくど・・・」も同類項に入りますので要注意です。

■人の心を引き離す【正論・叱る・怒る】



叱ることや怒るは必要だと考える人が多いのは、上司や親は幼児期から現在まで、ずっと叱られ怒られてきて、その体験の記憶が、思考と行動の基本パターンになって形骸化されているからです。

そして、上司や親が考える「善」つまり「仕事」「勉強」や「お手伝い」などをさせようとして「私のいうことをちゃんと聞きなさい」から始まる「叱りや怒り」で、圧力をかけ支配することが正しいと信じているのです。頭

脳の中には怒りや叱りを正当化する言葉がたくさん用意されていて、「叱りや怒り」は「相手の態度や言動やルール違反を指摘して改めるのに必要な役割を果たす」というものです。

また「叱る」は「怒り」と違って感情を込めないといわれますが、怒りの感情を少し抑えているだけで、実際は怒りの感情を伴わない人はいないでしょう。さらにまた、それは反論を許さない、選択肢のない押し付けとなるのです。叱られた結果、恐れをなして、課題に取り組む部下や子どももいるかもしれませんが、多くは怒りや反抗のエネルギーを内在させることになります。それが長じてやる気喪失や、課題への取り組みを放棄したり、反抗するなどの原因になります。

図の左側の「信頼・尊敬・感謝・・・」などの言動が人の能力を拡大し、やる気を起こし、他者との絆を深め、共同体意識を高め、繁栄と幸福を引き寄せる力の源泉となることを忘れてはなりません。

次回に、正論や叱りに代わるものは何かを解説します。

ヒューマニクス研究所／ハピネス心理学 主宰